

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月25日

【評価実施概要】

事業所番号	0972501035		
法人名	特定非営利活動法人フロレンス那須		
事業所名	認知症高齢者グループホーム愛里須		
所在地	栃木県那須郡那須町大字寺子乙4402-2 (電話) 0287-72-0550		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成20年1月31日	評価確定日	平成20年3月25日

【情報提供票より】(平成19年12月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	9 人 7 人	常勤8人(うち兼務1人), 非常勤1人, 常勤換算6.3人 常勤4人(うち兼務1人), 非常勤3人, 常勤換算4.8人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 1階建ての1階部分		
------	-----------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	・理美容代—実費 ・おむつ代—実費 ・個人的外出、出前、買い物—実費	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(60,000円)	有りの場合償却の有無	無 (補修費等を差し引いて退居時に返還)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,300 円	

(4) 利用者の概要(平成19年12月17日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名	
要介護1	3 名		要介護2	6 名		
要介護3	3 名		要介護4	6 名		
要介護5	名		要支援2	名		
年齢	平均	83.72 歳	最低	62 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	内科(田崎医院)、歯科(三田歯科医院)		
---------	---------------------	--	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

人に対する「尊重」「感謝」「真心」を理念として掲げ、出身地も生活していた場所も生活歴も価値観も異なる多様な入居者が共に生活していることを踏まえて、職員はその人らしさを大切にしたい支援を心がけている。一方で、利用者の仲間意識がホームの生活を形作っていることや、利用者同士の気遣いがあることから、職員は色々な面で利用者に助けられていると感じている。ホームには朝から笑い声があふれ、ホーム全体がお茶の間か井戸端のような活気がある。さらに、看護師が複数勤務していることから、健康管理や体調の変化への対応が素早くできるなど、利用者・家族の安心感を生み出している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価で課題とされた介護計画の共有化を重点改善項目として取り組んでいる。カードックスを導入して、記録の省力化のために、項目をチェックする方式にし、特記事項を書きやすくした。介護計画の共有が不十分であった点が改善されたことによって、ケアに変化があり、個人記録にも介護計画が反映されるようになった。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果を受け具体的な改善に取り組んでいる。今回の自己評価については、施設長と管理者が1ユニットずつ分担する方法で実施した。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議で外部評価の結果を報告し、委員から「評価結果が思っていたより良かった。指摘されたことは改善するように」と助言があり、職員会議で話し合い、改善に取り組んでいる。町の担当者とは気楽に相談できる関係となっているが、更に課題解決や共に質の向上を図っていく関係性をつくりたいと考えている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月、ホーム長が入居者の家族に一人ひとりの暮らしぶりを知らせる手紙を出している。健康状態など変化があった場合は、その都度電話で連絡しているが、家族の面会が多いので直接口頭で報告することも多い。家族から職員かどうか区別がつかないので制服を着てはどうかとの提案があったが、家庭的な雰囲気大切にしたいので、制服着用代わりに名前を書いてある布の腕章を着けることで対応した事例などがある。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	「那須町文化祭」「陶芸祭り」など様々な町内の催し物に出掛けて楽しんでいる。福祉センター内の障害者施設が運営する喫茶店にお茶を飲みに出かけたり、地元の自治会の人たちがそばを差し入れてくれるなどの関係もある。商工会が行うまちの活性化策の一つである「まちの駅」に指定されていて、「まちの駅」の『のぼり』が地域の人のホームへの訪れやすさにつながっている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の中の「尊重」「感謝」「真心」をキーワードに入居者の「その人らしくを尊重する」ことを日頃から心がけている。声かけもその人にあわせた言葉遣いで、安心して職員を信用してくれるようにと個別に対応している。また、今まで生活してきた延長線にホームでの生活があるとして、例えば、利用者が職員をかっつての仕事の関係者と間違えているときは、職員がその役を演じることもある。	○	那須町は観光地であり、別荘地である。このことを考えると地域密着型サービスの「住みなれた地域での安心した暮らし、関係性の継続、地域での生活の継続を支えるための柔軟な支援」を理念に盛り込み実践することは単純にはいかないことが想像される。その中で最大限努力している姿が見られるのでグループホーム愛里須ならではの「その人らしく暮らし続けることを支える」スタイルを確立していくことに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「入居者が心を開いてくれるように真心で接するようにしてほしい」また、「入居者が歩んできた人生を尊重して、人生の先輩に対する気持ちを持って言葉がけをしてほしい」との管理者の考えは、職員に伝わっている。職員は、心ある声かけで入居者の真心に接することができ、深い理解ができるようになったと実感している。	○	今後も真心でケアをすることで入居者の真心に接し、職員と入居者が穏やかにホームで共に時を過ごす信頼関係が更に深まることを期待したい。
3	5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	「那須町文化祭」「陶芸祭り」など様々な町内の催し物に出かけ楽しんでいる。これらの情報は家族や商工会、役場から届けられる。福祉センター内の障害者施設が運営する喫茶店にお茶を飲みに出かけることもある。地元の自治会の人たちがそばを差し入れてくれるなどの関係もある。商工会が行うまちの活性化策の一つである「まちの駅」に指定されていて、「まちの駅」の『のぼり』が地域の人々のホームへの訪れやすさにつながっている。	○	地域の様々な催し物に参加することに加えて、今後更に、例えば在宅で高齢者を支えている家庭の相談相手になるなど、ホームが地域の一員として担える役割を模索することで地域との関係を更に深めていくことにも期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価で課題とされた介護計画の共有化を重点改善項目として取り組んでいる。カードックスを導入して、記録の省力化のために、項目をチェックする方式にし、特記事項を書きやすくした。介護計画の共有が不十分であった点が改善されたことによって、ケアに変化があり、個人記録にも介護計画が反映されるようになった。	○	外部評価の結果を受け改善に取り組んでおり具体的効果が出ている。今後更に、自らの行っている日頃のケアの振り返りとして、自己評価の段階から全職員がより積極的に関わることに期待したい。

認知症高齢者グループホーム愛里須

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で外部評価の結果を報告し、委員から「評価結果が思っていたより良かった。指摘されたことは改善するように」と助言があり、職員会議で話し合い、改善に取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者とは気楽に相談できる関係となっているが、更に課題解決や共に質の向上を図っていく関係性をつくりたいと考えている。	○	ホームが抱える運営上の課題などを具体的に町の担当者に伝えることで一緒に認知症ケアの推進を図っていける関係性を深めていくという意味からも、今後も町の担当者とは常に情報交換しておくことを期待したい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、施設長が入居者の家族に一人ひとりの暮らしぶりを知らせる手紙を出している。健康状態など変化があった場合は、その都度電話で連絡しているが、家族の面会が多いので直接口頭で報告することも多い。	○	利用者の暮らしぶりを知らせる施設長の手書きの手紙は、離れて暮らす家族にとって親しみの持てるもので、今後も継続することを期待したい。それ以外に口頭で報告していたことを文章化したいとの希望があるので、手紙とは別にケアの実施報告書として提供することも期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員が、家族から意見、要望などを聞いた場合には、管理者、施設長、理事長までその内容が伝わるようにし、運営に反映できるようにしている。一目で職員と分かるように制服を着てはとの意見があったが、家庭的な雰囲気大切にしたいので、制服着用の代わりに名前の書いてある布の腕章を着けることで対応した事例などがある。	○	今後も家族からの意見等を様々な方法で収集することを続けるとともに、出された意見に対しては十分に話し合い、その結果がどう反映されたか経過を説明する機会づくりなどにも期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者とゆっくり話す時間が持て、心地よい支援ができるように職員配置に余裕を持たせている。時には施設長が支援に入れるようにして、職員の勤務の希望を最大限尊重している。給与や残業手当にも配慮することで職員の働きに報いるように運営者は努力している。常勤職員は開設当初からのメンバーで、利用者との馴染みの関係が保たれている。		

認知症高齢者グループホーム愛里須

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	専門職として外部研修を受けてきた職員は、OJTの手法で内部研修を開催して、リーダーとしての役割を果たしている。フットケアの研修後の実践で、入居者に変化があったことを体感した職員が研修の大切さを訪問調査時に述べていた。	○	外部からの様々な研修の情報を職員に伝え、積極的に研修を受けさせたいとホーム長は考えている。今後更に、ホームにとってどのような人材が必要かを見極め、計画的に職員を育成するための研修計画を年度ごとに立てる努力などにも期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	栃木県グループホーム協会の研修には施設長や管理者が参加しているが、勉強や交流の機会という意味でも、できるだけ若い職員にも外部の研修会の情報を伝え、参加する機会をつくっている。	○	県内のグループホームとの交流の機会を更に持ちたいとの希望があるのでその実現に期待したい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の準備のための見学時には、既に入居している入居者が対応してくれることが多い。馴染めるような自然な声かけで不安なく入居に導いてくれ、施設長は入居者に助けられていると感じている。入居後間もない不安のある時期は職員が寄り添って話をしながら過ごすようにしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家に帰りたと思う入居者の寂しさにつきあう職員のいたわり、また、ホームの中で自然と歌が始まる雰囲気、うたた寝している人に膝掛けをかける入居者同士のいたわり、のあるゆったりとした生活を提供する中で、職員は心のつながりができていると感じ、入居者に助けられているという実感を持っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホームでの生活が、今まで生活してきた延長にある暮らしとなるように、職員は入居者の「その人」を知る努力をしている。入居者の言葉を受け止めることやその行動の背景には何があるのかを推し量ることで思いや意向の把握をしている。	○	思いや意向をあまり表出しない入居者の思いを引き出すには、職員の言葉かけや「想像力」が重要になる。今後も「その人」を知ろうとする職員の努力に期待したい。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	今まで介護計画は計画作成担当者が独自に立て、日々のケアは介護計画を意識せずに行われていた。昨年の外部評価を受けて、カードックスを利用して介護計画を常に意識したケアの実践、記録に取り組み、徐々に改善されてきている。入居者を担当する職員が主にアセスメントを行い、計画作成担当者はその人らしさを尊重し、今まで通りの生活を介護計画の中に反映していきたいと努力している。	○	重点改善項目として取り組んできた効果が現れてきているので、今後も全職員で取り組みを推進し更に充実させていくことに期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は基本的に3ヶ月毎に見直しているが、転倒、介護拒否、行動障害、疾患時、ADLが低下したときなど状況の変化で適宜変更している。職員会議の中でケース会議も行われるが、それとは別に時間を取り、それぞれの職員が気づいた変化を伝えあい、計画に反映するようにしている。	○	一見入居者に変化のない定期的な見直しの時にはどうしても今まで通りの介護計画となりがちであるが、多くの職員が目を確認したことを持ち寄って介護計画を見直すべきかどうかも含めて確認することをこれからも続けていくことに期待したい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所のごく近くにある医院に24時間対応してもらえる体制があり、事業所内には常勤の看護師が複数名勤務していることから、医療連携体制加算を受けている。体調の急変時には適切で冷静な対応が期待でき、入居者、家族に安心感をもたらしている。	○	ホームは医療の面だけでなく、利用者や家族の様々な要望に柔軟に応じていくという姿勢を強く持っている。今後も比較的厚い職員体制を活かして、より一層の個別支援を進めていくことを期待したい。

認知症高齢者グループホーム愛里須


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な通院には家族の介助をお願いしているが、希望があれば町内の福祉タクシーを利用してホームの看護師が通院介助している。かかりつけ医とは密に連絡を取り、家族からも通院後に診療結果の情報を得て、入居者一人ひとりの健康状態の把握に努めている。また、状態の変化に応じて専門医の受診を援助している。	○	健康状態あるいは病状についての家族の見方と事業所の判断が食い違うことがあったり、家族から診療結果の情報伝達が不足することもあるので、今後とも家族へ十分な説明と密接な情報共有を図るよう、努力を期待したい。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重要事項説明書に「本人・家族の希望がありホームとの合意が成立した場合には終末までお世話する」と明記し、さらに医療体制についての説明文書が掲載されている。看護師の複数名の配置やベテラン介護士の存在で、つい最近も入居者の急変に際して適切で冷静沈着な対応ができた事例がある。夜間の急変に対応するために、現在の夜勤1名、宿直1名の体制を夜勤2名にしたいと考えている。	○	入居者が重度化したり終末期になれば、医師を交えた話し合いによって、家族の意向把握や方針の決定は出来るとしている。個々の入居者について、「どこでどのように療養し最期を迎えたいか」といった意向を確かめたり、その際の事業所側の対応を説明するために、手順等を明確にした別文書を作っておくことにも期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、入居者一人ひとりの状況を細かく把握し情報を共有しているが、入居者の前ではむやみに他の入居者のことを話題にしないよう努めている。職員個々と守秘義務についての誓約書を交わし、個人記録類は事務室の鍵のかかるロッカーで保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人その人の好みや生活の様式を大切に、ペースを乱さないよう気を配っている。共に楽しむレクリエーションなども多いが、無理強いはない。夕方になると「家に帰りたいからタクシーを呼んで」と言う入居者には、その思いを否定することなく職員が寄り添い、散歩などに付き合っ気をつなげさせている。		

認知症高齢者グループホーム愛里須

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は以前は皆で用意できていたが、徐々に参加できる入居者が少なくなり、調理師が調理をするようになった。後片付けが一緒にできそうな入居者には、順番に手伝ってもらっている。ピザやまんじゅうなど、おやつを手作りする機会を多く設けており、訪問調査の日もワイワイと楽しみながらピザ作りに参加している入居者の様子が見られた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は入居者が入りたいときに入れるようタイミングを見計らって支援している。以前入所していた施設では入浴拒否が強く、全く入浴することがなかった入居者が、このホームに入居後、職員の声かけや無理強いしない対応から徐々に入浴できるようになり、今では毎日ないし1日おきに入っている例がある。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	敷地内にはかなりの広さの畑がある。入居者が農作業によって、季節感を取り戻したり作物を育てる喜びを味わうことができる。那須山に出かけたり温泉に出かけたり、四季折々楽しみな行事も多い。居間では気のあった入居者同士が頭を寄せ合って話す姿やゲームを楽しみながら談笑する姿が見られ、笑顔の絶えないホームである。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所側が準備する外出の機会は多く、日々の事業所の買い物に入居者に付き合ってもらっている。入居者それぞれの誕生日には外食に出かける機会をつくっている。また、気晴らしや落ち着きを取り戻すために、散歩をすることもしばしばある。	○	今後も利用者それぞれの希望にそった外出支援をしたいとのことなので、個別支援をなお一層進めていくことを期待したい。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関には施錠していない。以前、帰宅願望の強い入居者が夕方の繁忙時に出て行ってしまったことが重なって、一時期施錠したことがある。現在は、職員の見守りを強化することで、施錠を回避している。		

認知症高齢者グループホーム愛里須

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火事の場合に備えて避難訓練を実施しており、運営推進会議にも報告をしているが、地域との防災に関連した協議などは今のところできていない。近くに消防署があり、職員は心肺蘇生術の講習を受けている。	○	火事を想定した避難訓練はしているが、そのほかの災害（地震、水害、噴火など）対策や夜間を想定した避難訓練など、消防署の協力を仰いだり地域と協議して、地域ぐるみで防災訓練を実施することにも期待したい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の記録用紙には、その日の食事摂取量や水分摂取の状況が記録できるようになっており、一人ひとりの摂取量が把握しやすくなっている。特に毎食後、おやつ時、入浴後の水分補給には気を配っている。嚥下に困難のある利用者にはお茶ゼリーでの補給など工夫をしている。また、乾燥対策に加湿器も使用している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は事務室を中心に2つのユニットが、鈍角のV字形に配置されている。リビングからは外の庭が眺められ、夏には庭でバーベキューなども行われる。居間にはテーブルやソファが用意され、テーブルの配置を工夫することによって、様々な使い方ができる。居室が並ぶ廊下の突き当たりには椅子と低いテーブルがあり、静かに読書などができる空間となっている。2つのユニットのしきりは普段開放されていて、入居者が互いに自由に行き来をして楽しむ姿が見られた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には一間幅の押し入れがあるので、たんす等の収納家具を持ち込む入居者は多くない。また、ホームは仮住まいで、いつかは家に戻れると思っている入居者も多く、そのような方の居室はあえて簡素なままにしてある。転倒傾向のある入居者の居室は、家具などにぶつからないようすっきり片付けられ、リハビリ用の平行棒を置き、伝い歩きができるようにして転倒を回避している。	○	日中はほとんどの入居者が居間で過ごしており、居室は寝るための空間という趣である。今後、一人ひとりの意向にそって、居室の設えに工夫を凝らす支援も期待したい。

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。